

公表

事業所における自己評価総括表

| | | | |
|----------------|--------------------|---|-----------|
| ○事業所名 | カミヤト凸凹文化教室（児童発達支援） | | |
| ○保護者評価実施期間 | 8年 3月 1日 | | 8年 3月 31日 |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 4 | (回答者数) 4 |
| ○従業者評価実施期間 | 8年 3月 1日 | | 8年 3月 31日 |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 3 | (回答者数) 3 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 8年 4月 15日 | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|---|--|---|
| 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育園の敷地内に事業所があることで、保育園のクラス活動・日課を園児と一緒に過ごすことが出来る。 ・ 当事業所をメインに利用して就学を希望する場合、保育園行事や卒園式にも一緒に参加し、就学までの移行支援をすることが出来る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 文化教室の児童と同じ学年のクラスと連携し、行事や活動を行うことで、集団の一員として生活を楽しめるよう工夫している。 ・ 保育園の方針に合わせ、ひとりひとりのペースに合わせた集団活動を体験することが出来る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育園の保育士とさらに連携を深め、特に利用児と同じ学年の保育スタッフと情報共有をしていく。 |
| 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 同敷地の保育園に食事を委託しているため、園児と同じようにバランスの取れた給食と手作りおやつを提供することが出来る。そのため、偏食などで悩む保護者のアドバイスにも、保育園に常駐している栄養士と連携して応えることが出来る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 食育活動として保育園で行っている田植え、野菜の収穫、クッキングなどに一緒に参加し、食材や調理過程について興味を持てる機会を作っている。 ・ 偏食の子であってもお友達と一緒に食事の雰囲気を楽しみ、給食に見慣れることから食事体験の幅を広げることにつながっている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 感覚過敏で、色々な食事や調理活動に苦手意識がある子に対しても、文化教室内の感覚遊びなどで少しずつ色々な感触に慣れ、段階を経てクラス活動を楽しめるように支援したい。 |
| 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 多様な関わりの機会の確保 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 児発、放デイを同じ教室で実施しているため、同年代（保育園児）だけでなく、放課後デイサービスの小中学生とも関わりの機会がある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 関わりが楽しめる子については一緒に遊べるものを提供し、苦手な子であっても同じ場所で過ごすことで、コミュニケーションに慣れることができるよう環境を整える。 |

| | 事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|--|---|--|
| 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育園スタッフへの、個々の利用者の細かい情報（個別支援計画に基づいた支援の方針）の共有に難しさがある | <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育スタッフと定期的に情報を共有できる場が設けられているわけではなく、隙間時間や活動中での情報共有にとどまっているのが現状である。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 全員の利用者についての情報の周知に難しさはあるが、年齢が近い学年のクラス担任とはより細かく情報共有したい ・ 個別支援に基づいてサービス提供を行っていることや、保育と違う部分などを理解してもらいながら協力し合えるよう、会議などで定期的に障害児通所支援に関する理解を深められる機会を持ちたい。 |
| 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 個別対応と、保育クラス等の集団参加へのバランス | <ul style="list-style-type: none"> ・ 支援計画に基づき個別対応の必要があるが、保育園としての集団活動にどこまで参加するか、集団の機会の確保と個別対応のバランスに悩むところもある | <ul style="list-style-type: none"> ・ 以前は常勤職員のみで事業所内ミーティングを行っていたが、次年度は全スタッフで話し合う形式にし、より現場の意見を広く取り入れた運営を目指したい。 |
| 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・ より専門的な研修機会の確保 ・ 他事業所の見学 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年度は人員不足もあり、社外研修に行く機会が少なかった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 発達障害全般の研修に加え、強度行動障害に関する体制を整えるための研修にも参加したい。 |